



## 1. 基本的事項

### 1 背景・目的

本市では、奈良市環境基本条例に基づく「第3次奈良市環境基本計画」を2022年3月に策定し、環境ビジョン「一人ひとりが動き出すなかで、奈良らしい豊かで持続可能な暮らしが生まれるまち」の実現に向け、5つの基本方針に沿った施策を推進しています。

そのうちの1つの基本方針である「脱炭素社会の構築」に関しては、市域の温室効果ガス排出量を抑制するための地方公共団体実行計画（区域施策編）である「第2次奈良市地球温暖化対策地域実行計画」を2017年3月に策定し、基準年度比で2030年度30%削減、2050年度80%削減の目標に向けて対策を推進してきました。

2020年10月、政府は2050年までに日本全体で排出される温室効果ガスを実質ゼロにする、いわゆるカーボンニュートラルを目指すことを宣言し、2021年6月に公布された地球温暖化対策推進法においても、2050年までのカーボンニュートラルの実現について初めて法律に明記されたことで、国や自治体、企業、個人が一体となってさらに積極的に脱炭素化、地球温暖化対策を推進していくこととなりました。

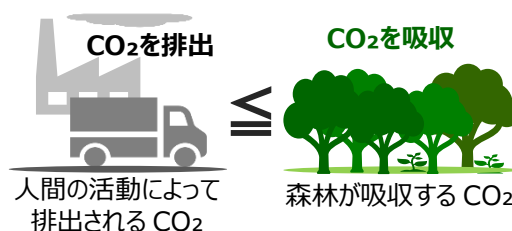
こうした背景から、本戦略は、奈良らしい伝統的な自然観やそれが豊かに表れている歴史的・文化的資産が生かされているまちづくりを念頭に置いたうえで、2050年ゼロカーボンに向けて目指す将来ビジョンを具体化し、その実現に向けて省エネルギー（以下、省エネという）の徹底と再生可能エネルギー（以下、再エネという）の最大限導入を核とした取組を示し、様々な主体と共有した上で、幅広い施策の展開に繋げることを目的として策定するものです。



#### ゼロカーボンとは？

「ゼロカーボン」とは、人為的に大気中に排出される温室効果ガスの量と森林等が吸収する温室効果ガスの量との間で均衡が取れた状態のことで、「カーボンニュートラル」、「脱炭素」、「実質ゼロ」等もほぼ同じ意味の言葉です。

再エネの導入や省エネ化等によって人間の活動による温室効果ガスの排出量を削減しつつ、植林、森林管理等によって吸収量を高めることで、これらの合計を実質的にゼロにすることで実現できるようになります。



## 2 本戦略の位置づけ

本戦略は、「奈良市第5次総合計画」や「第3次奈良市環境基本計画」を上位計画とし、2050年ゼロカーボンに向けた基本的な方向性と実現への道筋、取組を示すものです。また、地球温暖化対策推進法第19条第2項及び第21条に基づく「第3次奈良市地球温暖化対策地域実行計画」、及び気候変動適応法第12条に基づく「地域気候変動適応計画」を包含するものとして位置づけます。

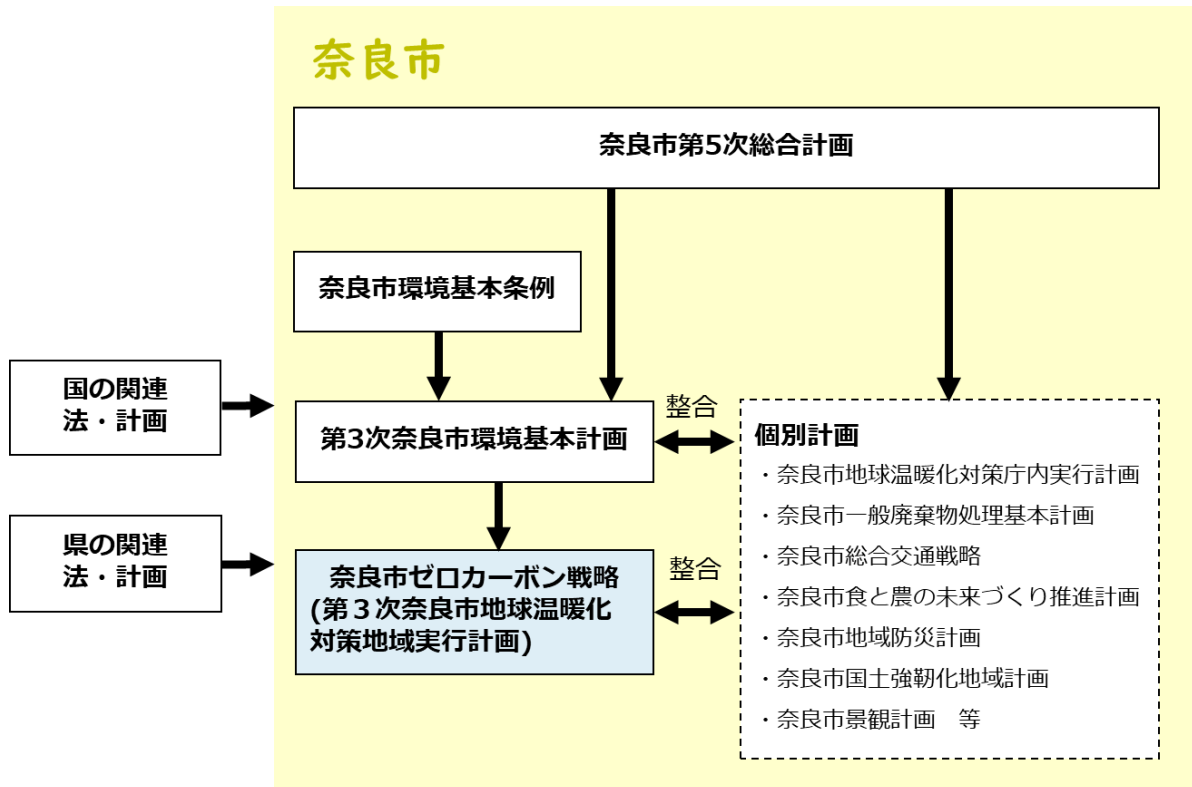


図1 本戦略の位置づけ





## 3 計画期間

本戦略は、脱炭素社会の実現に向けた長期目標として 2050 年度までの将来を展望するとともに、施策を確実に推進する観点から 2030 年度を中期目標として設定します。

なお、国の環境政策の動向や社会経済情勢等の変化により、必要に応じて見直しを行います。

表 1 本戦略の計画期間

奈良市ゼロカーボン戦略計画期間								
年度	2023	2025	2030	2035	2040	2045	2050	
計画期間				中期目標				
								▲必要に応じて見直し

## 4 対象とする温室効果ガス

本計画で対象とする温室効果ガスは、地球温暖化対策推進法第 2 条第 3 項で定められている二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>)、メタン (CH<sub>4</sub>)、一酸化二窒素 (N<sub>2</sub>O)、代替フロン等 4 ガス (HFCs (ハイドロフルオロカーボン類)、PFCs (パーフルオロカーボン類)、SF<sub>6</sub> (六フッ化硫黄)、NF<sub>3</sub> (三フッ化窒素) の 7 種類のガスとしますが、推計の対象とするのは本市において排出が想定される二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>)、メタン (CH<sub>4</sub>)、一酸化二窒素 (N<sub>2</sub>O)、HFCs (ハイドロフルオロカーボン類) とします。

表 2 各温室効果ガスの特徴

温室効果ガス		性質	用途、排出源
二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )		代表的な温室効果ガス	化石燃料の燃焼 等
メタン(CH <sub>4</sub> )		天然ガスの主成分で、常温で気体。よく燃える	稲作、家畜の腸内発酵、廃棄物の埋め立て 等
一酸化二窒素(N <sub>2</sub> O)		数ある窒素酸化物の中で最も安定した物質。他の窒素酸化物 (例えば二酸化窒素) 等のような害はない	燃料の燃焼、工業プロセス 等
代替フロン等 4 ガス	HFCs (ハイドロフルオロカーボン類)	塩素がなく、オゾン層を破壊しないフロン。強力な温室効果ガス	スプレー、エアコンや冷蔵庫等の冷媒、化学物質の製造プロセス 等
	PFCs (パーフルオロカーボン類)	炭素とフッ素だけからなるフロン。強力な温室効果ガス	半導体の製造プロセス 等
	SF <sub>6</sub> (六フッ化硫黄)	硫黄の六フッ化物。強力な温室効果ガス	電気の絶縁体 等
	NF <sub>3</sub> (三フッ化窒素)	窒素とフッ素からなる無機化合物。強力な温室効果ガス	半導体の製造プロセス 等

出典) 全国地球温暖化防止活動推進センターHP